

第2学年 実践記録

1 単元名 みんなでつかうまちのしせつ

2 単元設定の理由

○ 本学級の児童 28 名（男子 13 名、女子 15 名）は、どの児童も自分なりの思いや願いをもち、活動の場面では意欲的に取り組むことができる。児童はこれまでに、「どきどきわくわくまちたんけん」で、身近な地域を対象として、自分の知っている町のすてきな場所や人を友達に紹介して、クラス全員で確認しながら町を歩いた。そして、「もつとなかよしまちたんけん」で、もう一度探険に行きたい場所や会いたい人を決め、グループごとに探険する活動を行ってきた。その際、一人ずつがタブレットを持ち、町のすてきな人やものを撮影した。児童は、初めて見るものに感動し、意欲的にすてきを撮影することができた。そして、自分が見つけたすてきを整理し、タブレットで撮った写真を使いながら、見つけたすてきを友達と伝え合う活動を行った。伝え合うときには、写真を拡大したり、話したいことに合った写真を選んだりしながら、すてきを伝え合うという経験をした。

公共施設に関しては、公民館で英語を習ったり、児童クラブで図書館を利用したり、地域の公民館や図書館を利用したことがある児童が多くいる。しかし、公共の意識は十分に育っておらず、公共施設でのふるまい方や公共物を大切に利用しようとする意識や自ら進んで利用する意識を高めていく必要がある。

○ 本単元は、学習指導要領の内容（４）「公共物や公共施設はみんなのものであることやそれを支えている人々がいることなどが分かり、それらを大切にし、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。」、（８）「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」を受けて設定したものである。

自分たちの住む地域にある門司図書館を、利用したり、調べたりする活動を通して、公共施設はみんなで使うものであることやそれを支えている人々がいることに気付くとともに、繰り返し利用する中で、それらの物や施設に親しみや愛着をもち、大切に利用しようとする意識へとつながる。その公共の意識を高めていくと、自分自身の力でよりよい生活を作り出していく態度を養っていくことができると考え、この単元を設定した。

○ 指導にあたっては、門司図書館を実際に利用する時間をたっぷりとり、利用することで感じた思いや気付きを大切にすること。その上で、それぞれが門司図書館の「すてき」を感じ、その思いを友達にも伝えようという意欲へとつなげる。友達に「わたしのすてき」を伝える場面では、より自分の思いを分かりやすく友

達に伝えるための方法をそれぞれに考えさせる。タブレットでの写真や動画撮影をする児童には、再度図書館を訪れ思いに合った撮影をさせる。そして、タブレットや本、紙芝居を見せるなど、それぞれの方法で思いを友達に伝えることができるようにさせる。本時の友達との伝え合いの場面では、話し方、聞き方の確認をする。グループの友達に聞こえるように話すことや、タブレットを使うときは友達が見えやすいようにタブレットの見せ方を工夫することなど、聞く人を意識させる。また、友達の話は最後までしっかり聞き、話を聞いたら一言でも言葉を返せるように声をかけたい。クラス全体に「わたしのすてき」を広げるとき、タブレットの写真を使う場合は電子黒板に映して、クラスみんなに伝わるようにする。そして、伝え合いを通して、思いの変化や広がり、思いの深まりをワークシートに書かせるようにする。授業の最後に、児童の見つけた「すてき」な場面を流すことにより、思いを実感させる。単元の最後には、ポスターや手紙、プレゼントなど自分なりの表現で、門司図書館の方へそれぞれの思いが届けられるようにする。

3 単元の目標

生活への 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な公共施設に関心をもち、ルールやマナーを守って、安全に気を付けて利用しようとする。 ○ 公共施設や、施設を支える人々と親しみをもって関わり、自分の生活を広げようとする。
活動や体験についての 思考・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公共施設で体験したことや、関わった人のことを、自分なりに考えたり、振り返ったりして、それを素直に表現することができる。 ○ 分かりやすい伝え方の工夫をしている。
身近な環境や自分についての 気付き	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公共施設には、みんなが気持ちよく利用するためのルールやマナーがあることや、施設を支えている人々がいることに気付く。 ○ 公共施設を利用すると、自分たちの生活が楽しく豊かになることに気付く。

4 指導計画（総時数 10時間）

次	ねらい	主な学習計画・内容	評価規準（主な評価方法）
1	○ 図書館の利用のきまりやマナーに気をつけて、安全に正しく利用することが	1 門司図書館へ行こう。 (1) 門司図書館へ行く計画を立てる。 ①	【関】図書館に関心をもち、図書館に行ってみたいという意欲をもっている。（発言内

<p>2</p>	<p>できる。</p> <p>○ 門司図書館を利用して、図書館司書の人や館長さんとかかわることを通して、図書館のよさや働く人のよさに気づき、自分なりに表現することができる。</p>	<p>(2) 門司図書館を利用する。</p> <p>④</p> <p>2 門司図書館のすてきを見つけたよ。</p> <p>(1) 門司図書館の「わたしのすてき」を決める。①</p> <p>(2) 「わたしのすてき」を伝える準備をしよう。</p> <p>②</p> <p>(3) 「わたしのすてき」を伝え合おう。 (本時)</p> <p>①</p>	<p>容)</p> <p>【思】ルールやマナーを考え、安全に気をつけて図書館を利用している。(行動観察、カード記述内容)</p> <p>【思】自分たちの伝えたい思いに合った方法を選ぶことができる。(カード記述内容)</p> <p>【思】実物や写真などをもとに、図書館のよさを伝え合っている。(行動観察、発言内容)</p> <p>【気】図書館のよさやそこで働く人々の思いに気付く。(発言内容、ワークシート記述)</p>
<p>3</p>	<p>○ 図書館のことを調べて分かったことや感じたことを、自分なりの表現で伝えることができる。</p>	<p>3 門司図書館の方へ感謝の気持ちを届けよう。</p> <p>①</p>	<p>【思】自分の思いを、自分なりの表現で伝えることができる。(ポスター、手紙、プレゼントなど)</p>

5 ICTの活用について

本時におけるICT活用場面

	活用場面	活用方法・ポイント	期待される子どもの姿・力
--	------	-----------	--------------

1	前時を振り返る場面	電子黒板に、利用の様子 の写真を映し出し、活動 を全体で振り返る。	門司図書館を利用した ことを思い出す。
2	写真や動画を友達に 見せながら「わたしの すてき」を伝える 場面	「すてき」と思ったもの や人などの写真や動画 を、タブレットなどを使 って操作しながら伝え る。	写真を友達に見せなが ら、感じた「わたしの すてき」を分かりやす く伝える。
3	全体に広げる場面	「すてき」と思ったもの や人の写真を電子黒板 に映し、全員で共通理 解する。	写真を友達に見せなが ら、感じた「わたしの すてき」を分かりやす く伝え、友達の感じた 「すてき」に気付く。
4	まとめる場面	児童が感じた「すてき」 につながる映像を流し、 自分の思いとつなげる。	映像を見ながら、自分 や友だちの感じた門司 図書館の「すてき」を 共感し、実感する。

6 本時学習

(1) 日時 平成27年11月10日(火)第5校時 於:2学年1組教室

(2) 主眼 門司図書館のわたしが感じたすてきを伝え合う活動を通して、
図書館を支えている人たちの存在や図書館を利用することのよさに気付くこ
とができるようにする。

(3) 準備 教師:電子黒板、タブレット


児童:ワークシート、タブレット、本、手紙など

(4) 展開

	学習活動	○指導・支援上の留意点	◇評価規準 (主な評価方法)
導 入	1 前時までの活 動を振り返り、本 時のめあてを確か める。	○ それぞれが感じた図書館のすてきを学 習前に黒板に掲示し、本学習に向けて「伝 えたいな」「聞きたいな」という意欲を高 める。 ○ これまでの図書館を利用している様子 の写真を電子黒板に映し出し、本時の学習 への動機付けを図る。 <活用場面①>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> もじとしょかんの「わたしのすてき」を、友だちとつたえ合おう。 </div>		

	分や友達の思いに共感できるようにする。 ○ 司書さんからのメッセージを聞いて、 思いを実感させるようにする。 ＜活用場面④＞	ト、つぶやき)
--	---	---------

7. 指導の実際

学習活動・内容	指導の実際
<p>1 前時までの活動を振り返り、本時のめあてを確かめる。</p> <div data-bbox="129 714 628 848" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★活用場面① 前時を振り返る場面</p> </div> <div data-bbox="129 882 628 1099" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>★活用場面①の方法と効果 電子黒板に、利用の様子の写真を映し出し、活動全体を全体で振り返る。</p> </div>	<p>T：黒板に何が貼っているの。 C：門司図書館のすてき。 T：門司図書館で見つけたすてきですね。門司図書館でどんなことをしたか、振り返ってみるよ。 T：何しているの。 C：本を読んでいる。 本を探している。 借りたところ。 T：今日は、門司図書館の。 C：わたしのすてきを伝え合おう。</p> <div data-bbox="1091 938 1477 1155" style="text-align: right;">  </div> <p style="text-align: right;">【めあてをワークシートに書く】</p>
<p>2 門司図書館の「すてき」を、グループで伝え合う。</p>	<div data-bbox="261 1256 1374 1330" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>門司図書館の「わたしのすてき」を、友だちとつたえ合おう。</p> </div> <p>T：今日は伝え合うということなので、最初は3人で伝え合いましょう。次は、みんなに広げよう、それから、ふりかえりをしましょう。 T：話すときに気を付けることは、どんなこと。 C：写真を見やすいように見せる。 C：声の大きさ。速さ。 T：写真や本の見せ方、声の大きさと速さに気を付けて、友達に分かりやすく伝えようね。</p> <p>＜グループ1の対話＞ C1：司書さんが、返却した本を本棚に戻す前に、本をきれいに拭いてからなおして、すごいなあと思いました。</p>

★活用場面②

写真や動画を友達に見せながら「わたしのすてき」を伝える場面

★活用場面の方法と効果

*「すてき」と思ったものや人などの写真や動画を、タブレットPCなどを使って操作しながら伝える。

C 2 : (本にスプレーをかけて拭く動作を実演する姿を見て) 初めて本を拭くところを見ました。

C 3 : アルコールを付けた後は、つるつるなんですか。

C 1 : それは、よくわかりません。

<グループ2の対話>

C 4 : 仮面ライダーの本がたくさんあってすてきだな、と思いました。

C 5 : どの本が一番好きですか。

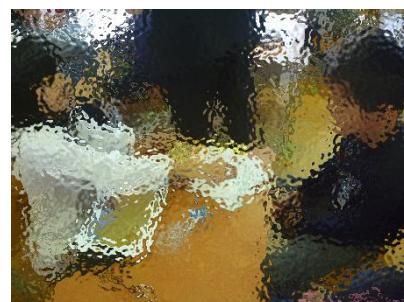
他にどんな本がありましたか。

C 4 : (タブレットPC) で写真を見せながら、この本です。

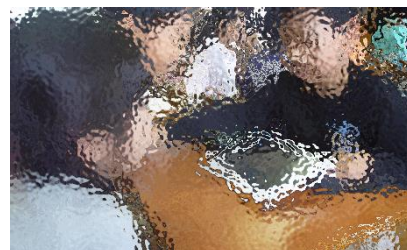
C 5 : よく分かりました。

T : 「わたしのすてき」をグループでお話できましたか。みんなの前でお話したい人はいる？

(たくさん手が挙がる。)



【本をタオルで拭く様子を実演】



【写真を見せながら話す様子】

3 全体で門司図書館の「すてき」を伝え合う。

★活用場面③

全体に広げる場面

★活用場面の方法と効果

*「すてき」と思ったものや人の写真を電子黒板に映し、全員で共通理解する。

C : 私が見つけたすてきは、おぼけのバケロンシリーズがそろっていることです。一番おもしろかったのは、「おぼけのバケロン」です。次におもしろかったのは、「おぼけのバケロンおぼけ学校へいこう！」です。わたしは、本当にバケロンシリーズが好きなので、いつも門司図書館で借りています。

C : ぼくも、バケロンシリーズの本を読んでみたくなりました。



【タブレットPCから写真を電子黒板に映して話す様子】

C：何冊ありましたか。

C：7冊です。

C：大好きな本があって、よかったですね。

T：初めから、ずっと読んでいたんだよね。大好きな本がシリーズでおいてあったね。

(掲示しているハートを指しながら)他の人も、本について書いていますね。

(本がたくさんと板書)

T：他にお話できる人？

C：「わたしのすてき」は、お母さんが好きな本があることです。門司図書館で借りて、お家で読んであげたら、お母さんが「ありが



【紙芝居を見せながら話す様子】

とう。」と言ってくれました。また、お母さんの好きな本を読んであげたいです。

C：何冊借りたんですか。

C：3冊です。

C：お母さんが好きな本が借りられてよかったですね。

T：お母さんのことが好きだから、お母さんが喜んでくれて嬉しかったね。

T：先生は、水色のハートを持っているよ。これ誰からだと思う？一つ読んでみるね。本のおかげでたくさん話すことができました…。

C：お母さんだ。家族。

T：家族もうれしい、楽しい、家族も喜んでくれたね。(板書)

T：他にお話できる人？

C：「わたしのすてき」は、秋のコーナーがあって、秋にぴったりの本がたくさんあったことです。ハロウィンやきのこの本がたくさんありました。秋の看板を見れば分かります。

今は、お仕事の本に変わっています。どこにあるか分からないときは、ここを見れば分かります。

C : 何冊ありますか。

C : 10冊以上ありました。

C : お仕事の本でおすすめは、ありますか。

C : まだ読んでないから分かりません。

C : 私は、司書さんが本の修理をしていてすてきな、と思い

ました。動画を流すので見て下さい。

司書さんが、修理をして



いる時、「破らな 【動画を流しながら話す様子】

いでね。」という気持ちです。優しく修理しています。

T : 最後に固めるために、クリップをしていたね。

C : 2分で修理できるんだ。

C : 本専用ののりですか？

C : はい。

C : 大きい本の修理にはどのくらいかかりますか？

T : 大きい本だったら、4分くらいかかりそうだね。

T : 司書さんのことどう思った？

C : すごい。ものしり。優しい。

T : 優しい？誰に？

C : 読みに来る人たちに。

私たちに。

C : 本にも優しい。

T : 人にも、本にも、みんなに優しいんだね。(板書)

4 友達の話聞いて、思ったことや感じたことをワークシートに書く。

★活用場面④

まとめる場面

T : 今日の振り返りをしましょう。ワークシートに思ったことを書きましょう。

C : 司書さんは、みんなのため、本のために働いていいと思いました。

C : ぼくは、見付けてなかったけど、秋のコーナーを見付けてすごいです。

C : 司書さんは、みんなに優しいから、えらいし、やさしいな、と思いました。

★活用場面の方法と効果

*児童が感じた「すてき」につながる映像を流し、自分の思いとつなげる。

<映像を流す>



【映像を流す様子】

C：高尾さん…

C：高尾さん出てきたね。

C：また行きたいな。

C：楽しかったね。



【自分たちが利用している様子の映像を見る児童たちの表情】

8. 成果と課題

<成果>

(1) 前時までの振り返りを電子黒板を使って行うことで、児童が図書館を利用している場面を追体験でき、本時での導入がスムーズにできた。

児童は、図書館に行き、自分の好きな本を借りる経験を4回行うことで、より「門司図書館のすてき」を感じることができた。

また、今年度は学級単位で利用したことで、より門司図書館の方と触れ合う時間も内容も濃く、児童の門司図書館に寄せる思いが深まったと感じる。

前年度は、図書館内での撮影が許可されないものもあったが、2年続けて取り組むことで、学校側の意図も伝わり、快く撮影を許可してもらった。司書さんのよさを、タブレットPCで動画を撮ってみんなに見せることで、その作業を見ていない児童にも実際に「よさ」を感じることができた。

児童の感じる「すてき」は様々で、それぞれの児童が分かりやすい方法で発表することができた。

<本時での発表方法>

- ・写真
- ・絵本、本、紙芝居（実物）
- ・手紙、写真（お家の人から）
- ・タブレットPC（写真と動画）
- ・貸出期限票
- ・うずしお

<感謝の気持ちを伝える方法>

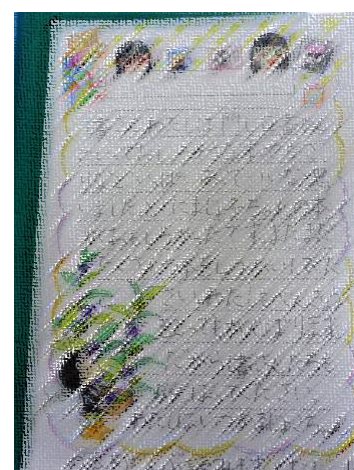
- ・絵
- ・しおり
- ・手紙
- ・しかけカード（国語科で学習したことが活用できた）
- ・言葉で伝える
- ・プレゼント
- ・写真



【しおり】



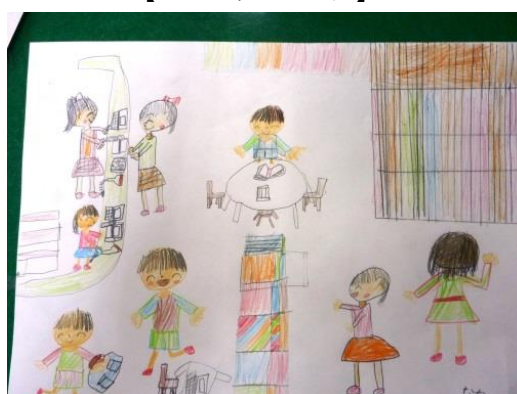
【しかけカード】



【手紙】



【プレゼント】



【絵】



【言葉で伝える】



【しかけカード】

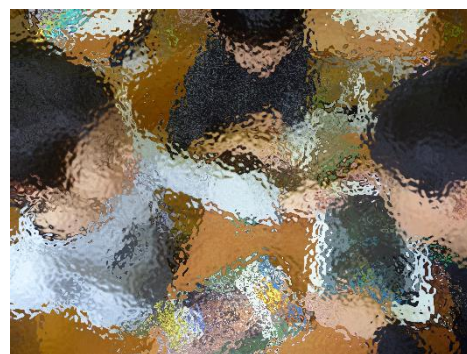
(2) この実践をするまでは、自分の言葉で自分の思いを伝えることができない児童が多かった。しかし、自分の伝えたい思いがあれば原稿を書き、熱心に練習をする姿が見られた。また、みんなの前でも話そうという意欲が見られた。どちらかという、発表が苦手な聞き役に徹することが多かった児童もタブレットPCを使うと、意気揚々と発表する場面が見られた。

<アンケート結果より>

自分が思っていることを話すのが好きですか。				
	すき	すこしすき	あまりすきではない	きらい
学習前	8人 (28.6%)	9人 (32.1%)	9人 (32.1%)	2人 (7.1%)
学習後	16人 (57.1%)	9人 (32.1%)	3人 (10.7%)	0人 (0%)

友達の発表を聞いて、質問をしたり、よさを見つけたりすることが好きですか。				
	すき	すこしすき	あまりすきではない	きらい
学習前	8人 (28.6%)	5人 (17.8%)	10人 (35.7%)	5人 (17.8%)
学習後	16人 (57.1%)	7人 (25%)	5人 (17.8%)	0人 (0%)

グループの人数を3人に絞り、話す人・聞く人と明確に役割を分けたので、お互いの伝え合いがより身近なものとなった。3人グループであると、顔をくっつけてタブレットPCを覗き込む場面も多く見られた。3人それぞれの思いが違う児童をグループにしたので、対話が活発化し、「すてき」に関連した話し合いがスムーズにできた。



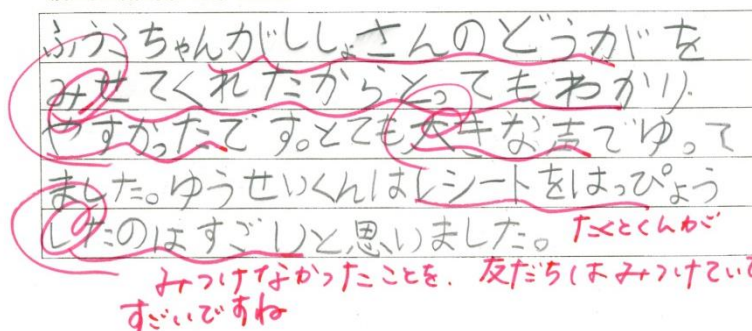
【写真を見ながら質問する児童】

グループから学級全体へと、広げていったので児童にとっても分かりやすかったと思われる。

- (3) 学び合いの場面では、タブレットPCのおかげで、児童が想起しにくい「おすすめコーナー」やポップ、司書さんの手元の動きを目の前で見ているかのように説明できたので、より理解が深まった。特に、動画は子どもたちの心に強く残ったことが、ワークシートの記述からもよく分かる。

友だちの話を聞いて思ったこと

<アンケートより>



みつけなかったことを、友だち(は)みつけていて、すばいびですね

一人一人が、自分の感じた「すてき」を黒板に貼ってからの授業だったので、自分のこれまでの思いを振り返りながら、今日の授業で新たに聞いたことが理解を深めることにつながったと思われる。

終末では、図書館を利用している児童の輝く笑顔を見せることで、児童の心の中にあたたかな思いが生まれたように感じた。そして、お世話になった司書さんからのメッセージが嬉しかったに違いない。



【嬉しそうな表情でメッセージを見る児童たち】

マジックワード（いいね・すごいね・同じだね など）の活用により、児童はこの後の学習場面でどの教科においても、発表を聞いたそれらの言葉を上手に使って感想や意見を言う児童が増えた。アンケート結果から分かるように、発表への意欲も高まり、学力も向上してきている。

（４）この学習を終えた後、これまで利用したことがなかった児童を含め、「わたしたちの門司図書館」を積極的に利用している。

<課題>

- 何度も図書館を利用することで、時間の確保が難しかった。授業時間ではなく、休み時間などを使ったため児童にも教師にも負担が大きかった。
- 校外に出かけるということで、必ず引率がプラス１必要となり、校内の先生方にもご迷惑をかけた。
- タブレットPCを使用するため、保存や編集に時間が取られる。
- 学校内で２年生の児童が、タブレットPCを使う際の段階レベルの共通理解があるのが望ましい。
- タブレットPCを使って発表する際に、本やタブレットPCを相手の説明中にいじるなど、聞く児童の関わり方の指導徹底が必要となる。
- 児童の対話力を日頃の学習で培っておかなければならない。
- 場の設定においても、グループでの対話の際、それぞれの発表に集中できるように空間を広く使う工夫が必要だった。